



# 「いつか誰でも認知症にかかる」のを前提に

「認知症の診断を受けられた方へ」～ご本人さま・ご家族さまへ～

【ご本人様へ】 ものを忘れたり、あれ?何かおかしいなと感じているのは病気によって起こっています。個人差はありますが、少しずつ進行していきます。病気によって起こっていたことをご家族は理解してくれます。今まで独りで抱え込んできた苦悩は、家族と分かち合えます。相談できる医療者・介護者がいます。安心してください。



## 【認知症当事者を支える方へ】～接し方の基本～

### ①ご本人の気持ちを理解することが大切です

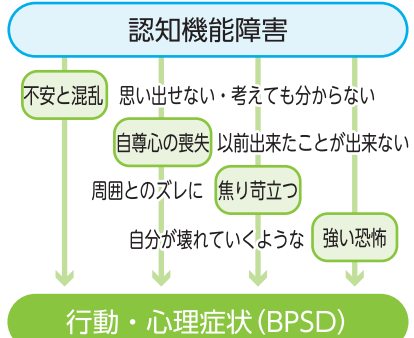
(自分の知的低下に気づき、不安を感じ、自信を喪失しながらも、懸命に生きてみえます) ご本人も、自分らしくありたいと願っていますが、認知機能障害があることで、

- 思い出せない、考えても分からないといった『不安と混乱』
- 以前出来たことが出来ないことから『自尊心の喪失』
- 周囲とのズレによって『焦り苛立つ』
- 自分が壊れていくような『強い恐怖』

を感じてみえます。こういったことが、行動心理症状(BPSD)の現れのもとになっていると言えます。「認知症の人にとって意味ある行動・伝えたい思いが表れている」といわれています。

認知症当事者の行動は、**脳の病気によって起こっています。**  
誰のせいでもありません。そして、本人も苦しみの中にあることをまず理解してください。

### 「自分らしくありたい」のだけど



### ②接し方の基本

認知症当事者を取り巻く人々の、コミュニケーションの取り方は本人のストレス・混乱に大きな影響を与えているので、意識する事が重要となってきます。

アルツハイマー型認知症は、感情や人となりなどの人間らしい部分は長く保たれます。

人が人であるかぎり、心は最期まであります。感じています。優しい関わりは、きっと伝わります。

- 本人のプライドを傷つけない。
- 本人を否定しないことが、大切です。

認知症は「絶望の病気」ではなく、「認知の障害」です。

周りの人や社会のサポートがあれば、獲得してきた知恵や本人の強み

(ストレングス)を生かしながら、地域で過ごすことが可能な病気です。



初期の頃は、記憶以外の多くの脳の機能が保たれています。今できることを知り、それを大切に。知的機能が低下し、進行していきますが、全てが失われたわけではありません。失われた能力の回復を求めるより、残された能力を大切にしましょう。

医療法人医誠会 本部 認知症対策室 認知症看護認定看護師 松田光央

